

2024年6月30日

年間第13主日

菊地功大司教 メッセージ

マルコ福音は、会堂長ヤイロの幼い娘が病気で伏せていたときに、その父親の願いに応えてイエスが出かけたときの出来事を記しています。

すでになくなったと言われる少女が、イエスの一言によっていのちを取り戻したのですから、この奇跡物語は、病気などの予期せぬ状況によって希望を奪われ、人生の絶望の淵にある人たちが、イエスとの出会いによって生きる希望を取り戻した話であります。

同時に、この物語でのイエスの言葉には、それ以上の意味が込められています。

「タリタ、クム。少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい」

病のためにいのちを十全に生きるすべを奪われた少女に、イエスはいのちをよみがえらせることによって、自ら立ち上がり、自らの運命の手綱を握って、歩み始めるようにと力を与えます。

この言葉は、単にいのちをよみがえらせた奇跡の言葉ではなく、人間の尊厳を奪われているすべてのいのちに対して、そのいのちを十全に生きる道を自ら切り開いていく力を与える言葉でもあります。

そう考えるとき、いま世界の現実の中には、人間の尊厳を奪い去り、希望を奪い去り、絶望の淵へと追いやるようなありとあらゆる理由が存在しています。もちろん、戦争はその最たるものですが、同時に教会は、この「タリタクム」の言葉に促されて、様々な自由から強制的に尊厳を奪われる人身取引の課題にも心を砕いています。

15年前に、女子修道会国際総長連盟が中心となり、世界の様々な人身取引の問題にカトリック教会として取り組むために設立されたネットワークは、その名をこの主イエスの

言葉から取り、「タリタクム」と名乗っています。日本でもその活動は行われています。

教皇様は今年の5月に行われた「タリタクム」の総会にメッセージを送り、その中で、「人身取引は組織的な悪であるからこそ、わたしたちも組織的に、また様々なレベルで取り組む必要がある」と述べ、その上で、「被害者のそばに立ち、彼らに耳を傾け、自分の足で立ち上がるようにと手を貸し、一緒になって人身取引に対抗する行動をすることが大切だ」と強調されました。

人身取引は、遠い世界の話ではなく、日本社会の現実の中でも発生しており、日本政府自身も「『人身取引』は日本でも発生しています。あなたの周りで被害を受けている人はいませんか？」と政府広報で啓発しているほど、世界の深刻な問題となっています。

いのちを生きるようにと少女に手を差し伸べ、その尊厳を回復させた主イエスに倣い、わたしたちもこの世界の中で、人間の尊厳を奪われ絶望の淵に追いやられている多くの人が、自らの足で立ち上がることのできるように、心を配りたいと思います。